活動経歴から気付いたこと
まちが変化する要因、意識啓発、人格

特定非営利活動法人やお市民活動ネットワーク
（八尾市市民活動支援ネットワークセンター「つどい」委託運営団体独自作成資料）

副理事長（業務責任者） 新福 泰雅

まちが変化する要因

幼少期・少年期の体験から気付いたこと

① 法律・施策 （例示：学校園の統廃合・合区・府市あわせ）

② 経　　済 （例示：バブルによる土地はがし・本社移転）

③ 天災・疫病 （例示：阪神淡路大震災・コロナ感染）

④ 人の意識 （例示：昭和から平成へ元号改元）

①～③が動機となる意識の変化（例示：大阪人の自信と誇り）

探究心・自己探究

大学時代・大学院時代の経験から気付いたこと

・研究とは、世の中で明らかになっていないことを調べ、解明すること。わかった事をまとめる（知見）。

・オリジナルと出典（既往研究による先人の蓄積）

・探究心の大切さ：頭も心も体も

・備考：研究方法として知る帰納法

啓発（意識付け・動機付け）

2004年度～2006年度開催の「市民フェスタ大阪」で
「ごみゼロアクション　～みんなで分けて資源にしよう！～」での
13分別とリユース皿・コップを洗浄・循環する取組みを通じて

① お金（数字で見えるので、わかりやすい。損得勘定が湧く。）

② 人格・道徳・心（もったいない・物を大切にする・ごみはきれい）

③ 人格・道徳・心（人や社会のお役に立ちたい・他者愛・損して徳取れ）

④ 将来像の提示（万博のように未来のごみゼロ社会大阪を表現）

※ 拡大生産者責任と市民がどこに廃棄物を出すのか選択する時代へ

人は何で意識をするのか（認識方法）

① 頭で認識する

② 心で認識する

③ 体で認識する（体感）

・認識の過程（プロセス）

知る → わかる（理解する） → 身に付く

どうすれば伝わるか

喋るテンポが速い私が気付いたこと。落ち着いて相手に合わせ、ゆっくり話し、相手の話を聴くことを前提に・・・

① 頭で理解したことを伝える：納得・共感は？

② 心で認識したことを伝える：言葉に重みがある。

③ 体で認識する（体感）：五感・感情から伝わる。

※ 想いが強すぎると、相手に圧力・恐怖感を与えるので要注意

※ 相手を説得するのではなく、納得をしていただくことが大切

人格九割・技術一割（何を提供するか）

仕事が出来る人でも、人間性が良くないと仕事は依頼しない。
　※ 「仕事の成果」と「進め方・人間関係と言う過程（プロセス）」

人は人格・人間性を見ている。

特に「つどい」の様な財を提供していない仕事は、人格しかない。

- 物やサービスを提供していない。
- 上記の見えるものより、意識と言った見えないものを取り扱う。
- 対象者に信じていただけるには人格・人間性しかない。

「つどい」がきっかけになる要素

・（結果的に）意識付け・動機付けを行っている

→　役割：市民活動を始める機会の提供（市民活動の入口の提供）

→　役割：市民活動の実践促進

・相手に利を提供する（断るのは簡単。提供する意識付け・動機付け）
　相手に気付くように諭す（さとす）しかない。
　相手自身が気付かないと変わることが出来ない。

・よく聴いて、頭も心も整理してもらう。想いも育む。聴くも寄り添うのひとつ。

これら、中間支援組織のいち役割。

役割を果たすには直観力（本質・核心を掴む力）を養うことが必要